

肩かたをうちぬかれ、右眼が見えなくなつてしまいましたが、学問にすぐれ、先生としてもりつばな人でした。

「伊策、お前の学問にうちこむ姿はすばらしい。お前の学問が子どもたちを教え、世の中にひろがつていったら、もつとすばらしいと思わないか。これからは、りつばな先生になるための勉強をしたまえ。先生になつたら、自分のわからないことを、ほかの人にたずねることをはずかしがつてはいけな  
よ。わからないことをわからせ、人に伝えることが大切なのだ。」

尊敬する川島先生のことだが、伊策の心にしみとおるように伝わってきました。伊策は、この川島先生の教えをうけて、これからは先生として生きることが決意するようになりました。

先生になる資格をとるには、福島市にある師範しはん学校を出なければなりません。伊策は、三日間も歩いて福島に行きました。師範学校に入学するための勉強を